

5

# 真宗・仏教と世界の宗教

※以下に記した「註釈版」の頁は浄土真宗聖典(本願寺出版社刊)のものです。

## I 宗教の起源と仏教の考え方

10

### 1 文明の発達と心の発達

(1)文明の発達 …道具の発達

15



(2)精神(こころ)の発達 …「愛のこころ」の広がり

20

異性(男と女)→親子→兄弟・姉妹→親族  
 →ムラ→部族→民族→人類  
 →家畜→生き物→植物→自然

25

### 2 安全への関心の高まり

(1) 安全をおびやかすものへの対処

30

(2) 安全をおびやかす不可解な現象への対処

① 現象の背後に正(+)と負(-)にはたらく「力」を見る

35

地 < +作物      水 < +潤い      火 < +熱・暖      風 < +涼・種  
 -地震            -水害            -火災            -大風

②不可解な力を「カミ」、「天」と解釈する → 宗教の起源

40

③不思議な出来事の解釈と対処…宗教儀礼の展開

### 3 「こころ」の不可解への注目…宗教の根本的転回

45

→仏教の展開 …外の世界の問題→内なる自己の問題へ

## II 世界の宗教と仏教

### 1 宗教の分類

50

世界宗教…一民族に限らず様々な民族に受け入れられ、かつ明確な創唱者(開祖)が存在する宗教。(以下の数字はブリタニカ国際年鑑2018による)

55

A

世界三大宗教 {

- キリスト教…キリスト教徒 24億4799万人(32.9%):234カ国
- イスラム教…イスラム教徒 17億5204万人(23.6%):212カ国
- 仏教…仏教徒 5億2149万人(7.0%):152カ国  
(大乘仏教72%/上座部仏教25%/タントラ仏教-ラマ教-3%)

民族宗教… ヒンズー教徒…10億1942万人(13.7%) ユダヤ教徒…1477万人(0.2%)

中国の民間宗教…4億4115万人(5.9%) 日本の神道など

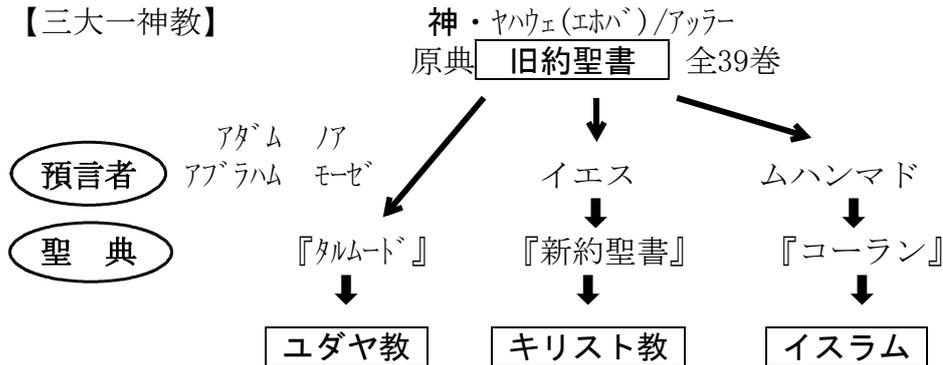
60

- B** 自然宗教…自然発生的で、無意識に先祖達に受け継がれた宗教。Aの分類では多くが民族宗教に分類される。
- 創唱宗教…創唱者(開祖)、生まれた時期や中心的な思想・教義が明確な宗教。世界三大宗教(仏教も含む)をはじめ、ゾロアスター教、ジャイナ教、シーク教等
- C** 多神教…複数の神々を同時に崇拝する宗教。古代ギリシャの宗教、ゾロアスター教、神道(八百万の神)、道教、ヒンズー教、アニミズム、トーテミズム等
- 一神教…唯一の神を崇拝する宗教。
- 仏教…仏陀(覚者)の教え、仏陀に成る宗教(成仏道)。

## 2 仏教の特色

(1) 唯一絶対、全知全能の神を前提としない。

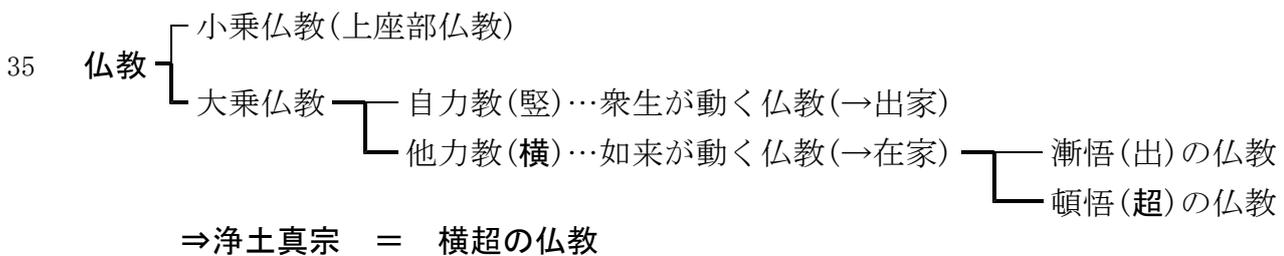
cf. 【三大一神教】



(2) 世界(宇宙)創造の神話を持たない。

(3) さとり(正覚)によって仏陀に成る(覚者に成長する)宗教。

## III 仏教の歴史的展開



## III 浄土真宗という仏教

### 1. すべての仏教は浄土真宗におさまること

【化身土巻】-門余の釈-(註釈版P.393)

…宗師(善導)の意によるに、「心によりて勝行を起せり。門八万四千に余れり。漸・頓すなはちおのおの所宜に称へり。縁に随ふものすなはちみな解脱を蒙る」(玄義分)といへり。しかるに常没の凡愚、……「たとひ千年の寿を尽すとも、法眼いまだかつて開けず」(定善義)といへり。……ゆゑに、「如来はるかに末代罪濁の凡夫を知ろしめして、相を立て心を住すとも、なほ得ることあたはじと。いかにいはんや、相を離れて事を求めば、術通なき人の空に居て舎を立てんがごときなり」(同)といへり。

「門余」といふは、「門」はすなはち八万四千の仮門なり、「余」はすなはち本願一乗海なり。

【正信偈】如来所以興出世 唯説弥陀本願海(註釈版P. 203)

…如来、世に興出したまふゆゑは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり。



らん身にて往生はいかがなんどあやぶまんひとにも、本願には善悪・浄穢なき趣をも説きかせられ候はばこそ、学生のかひにても候はめ。

たまたまなにごころもなく、本願に相応して念仏するひとをも、学文してこそなんどいひおどさること、法の魔障なり、仏の怨敵なり。みづから他力の信心かくるのみならず、あやまつて他を迷はさんとす。つつしんでおそるべし、先師(親鸞)の御ところにそむくことを。かねてあはれむべし、弥陀の本願にあらざることを。

## ■(2)『教行信証』は他力の法義によって構成されていること

### ①『教文類』総標綱紀(註釈版 p. 135)

つつしんで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、二つには還相なり。往相の回向について真実の教行信証あり。→往還回向由他力 (正信偈)

### ②『行文類』偈前序説(註釈版 p. 202)

おほよそ誓願について真実の行信あり、また方便の行信あり。……中略…これすなはち誓願不可思議一実真如海なり。『大無量寿経』の宗致、他力真宗の正意なり。

### ③『信文類』行信結釈(註釈版 p. 229)

しかれば、もしは行、もしは信、一事として阿弥陀如来の清浄願心の回向成就したまふところにあらざることあることなし。因なくして他の因のあるにはあらざるなりと、知るべし。

### ④『証文類』四法結釈(註釈版 p. 312)

それ真宗の教行信証を案ずれば、如来の大悲回向の利益なり。ゆゑに、もしは因、もしは果、一事として阿弥陀如来の清浄願心の回向成就したまへるところにあらざることあることなし。因、浄なるがゆゑに果また浄なり。知るべしとなり。

### ⑤『証文類』往還結釈(註釈版 p. 335)

しかれば大聖(釈尊)の真言、まことに知んぬ、大涅槃を証することは願力の回向によりてなり。(往相) 還相の利益は利他の正意を顕すなり。(還相)

## ■(3)「他力」とは私の往生(成仏)についていうこと

### ①『親鸞聖人御消息』(註釈版 p. 779)

また他力と申すことは、義なきを義とすと申すなり。義と申すことは、行者のおのおののほからふことを義とは申すなり。如来の誓願は不可思議にましますゆゑに、仏と仏との御はからひなり、凡夫のはからひにあらず。補処の弥勒菩薩をはじめとして、仏智の不思議をはからふべき人は候はず。しかれば、如来の誓願には義なきを義とすとは、大師聖人(源空)の仰せに候ひき。このころのほかには往生に要るべきこと候はずとこころえて、まかりすぎ候へば、人の仰せごとにはいらぬものにて候ふなり。

### ②『親鸞聖人御消息』(註釈版 p. 770)

如来の御はからひにて往生するよし、ひとびとに申され候ひける、すこしもたがはず候ふなり。としごろおのおのに申し候ひしこと、たがはずこそ候へ、かまへて学生沙汰せさせたまひ候はで、往生をとげさせたまひ候ふべし。故法然聖人は、「浄土宗の人は愚者になりて往生す」と候ひしことを、たしかにうけたまはり候ひしうへに、ものもおぼえぬあさましきひとびとのまゐりたるを御覧じては、「往生必定すべし」とて、笑ませたまひしをみまみらせ候ひき。文沙汰して、さかさかしきひとのまゐりたるをば、「往生はいかがあらんずらん」と、たしかにうけたまはりき。いまにいたるまでおもひあはせられ候ふなり。

③『親鸞聖人御消息』（註釈版 p. 743）

往生はともかくも凡夫のはからひにてすべきことにても候はず。めでたき智者もはからふべきことにても候はず。大小の聖人だにも、ともかくもはからはで、ただ願力にまかせてこそおはしますことにて候へ。

④『親鸞聖人御消息』蓮位添状（註釈版 p. 766～767）

またおくれさきだつためしは、あはれになげかしくおぼしめされ候ふとも、さきだちて滅度にいたり候ひぬれば、かならず最初引接のちかひをおこして、結縁・眷属・朋友をみちびくことにて候ふなれば、しかるべくおなじ法文の門に入りて候へば、蓮位ものもしくおぼえ候ふ。

■(4)「自力」とはどういうことか

①『一念多念文意』（註釈版 p. 688）

自力といふは、わが身をたのみ、わがころをたのみ、わが力をはげみ、わがさままの善根をたのみとなり。

②『親鸞聖人御消息』（註釈版 p. 746）

まづ自力と申すことは、行者のおのおのの縁にしたがひて余の仏号を称念し、余の善根を修行してわが身をたのみ、わがはからひのころをもつて身・口・意のみだれころをつくろひ、めでたうしなして浄土へ往生せんとおもふを自力と申すなり。

③ 他力信心と自力心

他力の信心＝無信心

『信巻』（註釈版 p. 245）

「まことに知んぬ、至心・信樂・欲生、その言異なりといへども、その意これ一つなり。なにをもつてのゆゑに、三心すでに疑蓋雑はることなし、ゆゑに真実の一心なり。これを金剛の真心と名づく。金剛の真心、これを真実の信心と名づく。」

『唯信鈔文意』（註釈版 p. 699）

「信はうたがひなきころなり、すなはちこれ真実の信心なり」

自力心＝疑心

『正像末和讃』誠疑讃（註釈版 p. 611）

「自力称名のひとはみな 如来の本願信ぜねば  
うたがふつみのふかきゆゑ 七宝の獄にぞいましむる」  
「信心の人におとらじと 疑心自力の行者も  
如来大悲の恩をしり 称名念仏はげむべし」

④ 仏力・願力は名号をもって十方衆生に回施されている

『一念多念文意』（註釈版 p. 678）

「至心回向」といふは、「至心」は真実といふことばなり、真実は阿弥陀如来の御ころなり。「回向」は本願の名号をもって十方の衆生にあたへたまふ御のりなり。

⇒真宗における成仏道の成立は、仏力・本願力・他力による。それは名号となって十方の世界に流行している。

末尾